

令和6年度 第1回都市緑化専門部会 会議概要

■日時

令和6年9月27日（金）10時00分～12時00分

■場所

千歳市水道局2階会議室3

■出席者

委員出席者：外崎委員（部会長）、竹田委員、津田委員、井溪委員、古幡委員、山根委員、佐々木委員、渡辺委員（計8名）

委員欠席者：なし

事務局：都市整備課長ほか5名

■会議結果

1 開会

2 都市整備課長挨拶

3 部会長選任

部会長は外崎委員に決定した。

4 議事

- (1) 千歳市の緑の現況について
- (2) 市民アンケート結果について
- (3) ワークショップ開催結果について
- (4) 千歳市の緑に対する課題の抽出
- (5) 今後のスケジュールについて

・専門部会の議事録は、原則として委員名を記載せず、発言内容を要約した会議概要を部会長に確認していただいた上で、市内部で決裁をとることとなった。

・上記(1)～(3)及び(5)について、事務局から説明を行い、(4)においては意見交換を行った。

5 閉会

■会議における意見及び質疑応答等

1 議事(1)～(3)について（関連した内容となるため、事務局からまとめて説明）

【委員 A】

緑とは関係ないが千歳市は、熊や鹿など道路に注意の看板が多い。市民としては怖いので対策の状況を知りたい。

【部会長】

森林の場合は、出没する場所によって管轄が異なり、国有林は、国において毎年鹿の罾を設置し、捕獲している。民有林は、猟友会で駆除しているが、民家があると発砲できないな

どの制約があり、鹿が増える量に対して駆除が追い付いていない状況である。また、猟友会の高齢化も問題となっており、国を含めた大きな視点での対策が必要と考えられる。

【事務局】

市においては、農業への対策、市街地への対策、車の事故対策などが課題であり、それぞれの担当部署において対策を検討している状況である。都市整備課においても、公園などの周辺で熊が出没した場合は、注意喚起の看板を設置し、周知を行っている。

2 議事(4)について

【事務局】

千歳市の緑に関する課題について意見交換を行う前に、まずは千歳市の緑に関する良い部分についてご意見を伺いたい。

【部会長】

岩見沢市出身であるが、千歳市に来た際に、公園が多く、トイレもきれいに管理されており、緑の多いまちという印象を受けた。

また、青葉公園は、千歳市のシンボリックな公園というイメージがある。

しかし、アンケートでは、管理が不十分という意見もあり、市民の要望と市の予算状況などを踏まえた落としどころを決めるのは難しいと思いながら、説明を聞いていた。

【委員 B】

千歳市の公園、街路樹、緑地などの維持管理は、市の指定管理者として環境整備事業協同組合が行っており、予算に応じて業務工程を組んでいるが、必要最低限の管理だと思っている。除草については、近年は気温が高いことから、草の成長が早く、十分な管理とは言えない状況である。

また、アンケートにおいて、街路樹の剪定技術に対する意見もあったが、技術はあっても、市民の要望に応じて剪定を行っているのが現状である。

公園について、勇舞すこやか公園などの水場がある公園や、大木があり、テントが張れる公園、遊具はなくても広い公園は市民から人気があるが、古い公園も多く、遊具の更新が追い付いていない。木のベンチはコケが生えるため、プラスチックに更新しているが、汚れていると座らない人も多く、ベンチはないほうが良いのかもしれない。

【委員 C】

現行の千歳市緑の基本計画における「親しむ」・「みまもる」の視点に関わる仕事をしている。毎年開催している花いっぱいコンクールでは、参加者が花植えに熱心で、除草も積極的に行っており、フラワーロードは、札幌市や恵庭市に比べても素晴らしいと思っている。

また、先日、グリーンベルトで開催された空と川のアウトドアフェスティバルは、若い方が多く、よいイベントだったと感じている。

【委員 D】

川の近くで散歩できるところや、釣りができるところがよいと思っており、河川敷を整備して、子どもが川に親しめるようになるともっとよくなると思う。反対に、武道館から千歳霊園までの道路にごみや不法投棄が多く、樹木ももう少し剪定して安全にならないかと感じているため、市街地から離れたところの管理をもう少しできればと思っている。

【委員 E】

水辺の公園などについて、市外の人や転入者などに対して情報発信し、千歳市の良さをアピールできると思う。

【委員 F】

ちとせ環境と緑の財団（以下「財団」という。）では、毎年開催している花いっぱいコンクールにおいて、約6万5千株の花を町内会や学校などに無料で配布し、花壇づくりに取り組んでいただいております。巨木をめぐるウォークラリーなどの様々なイベントも行っていますが、アンケートでは、花が少ない、恵庭市みたいになればいいという意見が多いことに驚くとともに、少しショックだった。

【委員 A】

公共花壇のボランティア活動を行ってきた。緑の現況の結果に納得はするが、市が管理する公園や花壇の手入れが飽和状態になっているので、花壇を作った後の維持管理をどうするかが課題だと考えている。市の予算やボランティアの人数などの問題もあるが、市・ボランティア・学生・自衛隊などが協力して公共花壇の管理ができないか。

また、ボランティアは、頑張ったことによるちょっとしたご褒美があれば続けられると思うので、これから考えていき、維持管理に力をいれていけたらと思う。

【委員 G】

千歳市出身で向陽台に住んでおり、自身が子どもの頃や自分の子どもも千歳川でよく遊んでいた。向陽台は公園が多く、町内会の方が周囲に声をかけながら草刈りやごみ拾い、掃除などの管理をしてくれていたが、高齢化で解散してしまい、残念に思っている。向陽台公園の木製遊具や健康遊具が老朽化で遊べなくなったのも残念に思っている。

また、財団の方から話のあった、緑を広める活動は、活発に取り組まれている印象があるので、緑に関する講習やスキルアップなども含め、市民が公園や緑地の管理に視点がいくようもっと周知を行えば、市民の活動も活発になると思う。

【事務局】

ここからは今後の緑に対する課題についてご意見を伺いたい。

【部会長】

仕事で山に入ることが多いが、アンケートにもあったとおり、森林を伐採してその跡地に太陽光パネルを設置することが増えている。森林の開発が進み、ここ20年の間に100ha単位で森林がなくなっていることや、景観、ごみの不法投棄などの問題についても危惧している。

【事務局】

林業として伐採した分については、植林しているのか。

【部会長】

伐採した分については、植林し、森林を継続するというサイクルはできている。

【委員 B】

ここ10年ほどは木を植える時代ではなく、維持管理の時代になってきているため、既存木をどう生かすかということが大事。現在、公園や街路樹などの枯損木の伐採を行っており、伐採自体は問題ないが、切ったあとどうするかが課題である。

【委員 A】

木を伐採する時に、切り株を残す理由はあるのか。

【委員 B】

切り株があるということがわかりやすいようにする（つまづかないようにする）ためと、チェーンソーの厚みがあり、地面すれすれで伐採できないため、10センチくらいは残ってしまうが、その後は枯れる。昨年から、専用の機械で試験的に街路樹の伐根を行っているが、根が枯れるまで待たなくてはならない。

不要な木は管理しきれないので切ってもいいと思う。これからは既存の緑をどのように生かすか、緑の入れ替えの時期なのかもしれない。

公園に植栽する際は、一般公募で市民と一緒に植栽してはどうかと考えている。

昔は市民と桜の植樹も行っていたが、今はなくなった。住宅地でも木を植えない、芝生を張らない時代なので、市民のニーズにあった公園や緑を作らないと賛同してもらえないと思う。

【委員 C】

先ほどの質問を受けて、委員が千歳市の緑の良いところをほとんど挙げられなかったことが最大の問題であり、人を育てることから始めるべきだと強く思った。ボランティアの育成についても、人と団体の両方を育てるカリキュラムが必要だと考えている。例えば、農業分野ではグリーンツーリズムが中心となっており、福祉の分野では社協が全国組織となっているが、緑化についてはそういった組織がなく、市町村の裁量に任されている部分が多い。

また、ワークショップの中で、緑のネットワークを守るためには、市民との協働と書かれていたが、千歳市に緑のネットワークが存在するのか疑問である。例えば、札幌市はボランティアの緑のネットワークという存在があり、恵庭市は商業地域が中心となって緑化を推進している。北広島市は、ボールパークのボランティアを全国から募集し、市も補助していくという話がある。千歳市は個人だけでなく、団体を育てることに力を入れることが必要だと思った。

【事務局】

緑のネットワークについては、情報のネットワークなのか、単純に緑のつながりのネットワークなのか、今回の見直しで議論していければと考えている。

【委員 D】

千歳市はきれいなまちだと思っている。今後人口が減少するため、木を増やしていくというよりは、管理が大事になってくるので、予算付けして業者に委託するのがよいと思う。

また、今は共働きが多いので、緑の活動への参加が難しい人も多いのではないかと感じている。自身は幸福に住んでいるが、木が少ないので落ち葉などの問題もなく、家のそばに緑や自然がなくても、近くに手入れされた公園などがあれば満足なのではないか。

【委員 E】

今からでも桜の木を植樹すれば、将来的に人が集まる場所になるのではないか。市外からも人が集まってくる場所ができればいいと思う。こういった理由で桜の植樹はなくなったのか。

【委員 B】

苦情が多いからか、15年くらい前から道路は植樹帯をつくらなくなり、公園でも植樹を行わなくなった。市の考え方によるところもあると思う。

【事務局】

緑の場所をつくる、用意するのが市の役割としてあると思うが、昔のように緑を増やそうというよりは、維持管理の方向に向いていると考えている。

【委員 F】

財団も事業を進めていく中で、何かを増やしたら何かを減らす必要があるため、事業を膨らませるのは難しいと感じている。個人的な話になるが、市役所では熊の担当だったが、その頃から比べると出沒数は増えており、昼間も出てくるようになった。趣味で自転車に乗るが、支笏湖や向陽台に行きづらくなり、青葉公園も少し怖くなってきた。

【事務局】

熊対策については、公園と縁がないわけではないので、今後の課題として考えていく必要があると思う。

【委員 A】

市の緑に関する予算は増えているのか、減っているのか。

【事務局】

補助金を活用し、財団にお願いしている。補助金は毎年一定程度確保しているが、増えてはいない。

【委員 A】

事業によって増減はあるか。

【事務局】

基本的には今の金額の範囲内で実施しており、市として注力する政策があれば、予算が増える可能性もある。

【委員 A】

ボランティアや町内会が高齢になってきているので、彼ら頼みでは動けなくなることが予想される。他と手を組む、やり方を変えるなど対応できないか。全てを業者に任せることもできないと思うが、これまで町内会で当たり前に行ってきた管理が難しくなっている。

【委員 G】

アンケートでは、剪定に関する苦情が多いと感じた。維持管理の予算と人手不足が関係しているのか、又は市民の緑に関する知識が足りないことで苦情に繋がっている場合も考えられるため、管理の現状や剪定の理由などについて、市民に対してもっと周知するとともに、人を育てるという観点からも緑に関する知識を広める活動を行っていくのが良いと思う。

また、時代が変わり、共働きの多いので、自宅に樹木や花を植えない人が多いが、休日は緑を求めて外出する人も多い。身近に市民ニーズにあった、きれいで快適な公園や緑地があったらいいと思う。

【事務局】

維持管理や情報発信、時代に合った緑を考えていく必要があると感じた。

【委員 G】

仕事でガーデン管理をしている。メリハリのある管理をすると、全てきれいにしなくてもきちんと管理されているように見える。これをまちに置き換えると、交通量の多い道路、メインとなる施設の緑が整備されていると、まち全体が管理されていてきれいという印象を与えられると思う。

【事務局】

拠点的に緑の管理されたきれいな場所を作り、それらを繋げていくというイメージか。

【委員 G】

市役所や空港などの拠点、それらを結ぶ道路などを整備していくことが大事だと思う。シンボリックな部分がきれいだと街の印象もきれいになると思う。ガーデンの仕事では手入れに優先順位を付けてメリハリをつけている。

【委員 C】

アンケートの「時間があれば活動に参加したい」という人が54%とかなり多い。そういった人の掘り起こしは緑化を推進する上で有効だと思う。植樹でも、植栽でも、見学だけでも、集まるだけでもいいと思う。時間があれば参加できる場を作ることが大切だと思う。

【委員 A】

小さいイベントでもできるかもしれない。

【事務局】

財団でも講習会などを行っていただいているので、それをどう繋げていくか、PRしていくかの土台はあると思う。

【委員 C】

年代別に見た場合の参加意向はどうか。

【事務局】

参考資料の13ページに年代別のクロス集計結果を整理している。

【委員 A】

そういう人をどう拾い上げて活動につなげていけるかが重要。

【委員 B】

緑との関わりは木もあれば、花もあるがもう少し細かい分類はないか。

【事務局】

今回のアンケートでは、そこまで詳細な意見は聴取していない。

【委員 B】

アンケートは毎年行うのか。

【事務局】

緑の基本計画を改定するために実施したアンケートのため、毎年は行っていない。

【委員 B】

イベントをするにしてもどういったものに参加したいのかわかればいいと思う。

【事務局】

実際に事業の計画を行う際に検討していければと考えている。

【委員 B】

都市緑化専門部会と公園緑地専門部会との違いは。

【事務局】

都市緑化専門部会は樹木や緑化振興に関わる事項、公園緑地専門部会は、公園・緑地の整備などに関わる事項を検討する。

【委員 B】

都市緑化専門部会の対象は公園、街路樹、緑地帯の緑も含まれると思うが、道路管理課はなぜ部会に参加しないのか。

【事務局】

緑化は都市整備課が所管しているため、都市整備課が窓口となって、必要な情報を庁内に周知する形をとっている。

【委員 B】

アンケートでも街路樹の意見が多かったので、オブザーバーで道路管理課を呼んでもいいと思う。

【事務局】

次回開催に向けて検討する。

【委員 B】

公園台帳はあるのか。木の本数や遊具の情報などは記載されているか。

【事務局】

遊具やベンチの情報が記載された公園台帳はある。ただし、近年の植栽工事を行ったものは整理しているが、既存木の本数に関する情報はない。

【委員 B】

環境整備事業協同組合で使っている書類は、緑化協会からの引継ぎ資料でかなり古い。造園組合で3～4年おきに街路樹の台帳を作って市に提出している。

【事務局】

管理のために台帳が必要と言うのも課題のひとつだと思う。

3 議事(5)について

【事務局】

次回の専門部会は、10月30日(水)を予定している。

また、今後の日程については、進捗状況によって、日程や内容を変更する可能性がある

質疑応答なし。

以上